

## 行政調査報告書「健幸都市研究特別委員会」

平成 28 年 10 月 12 日(水)～13 日(木)

### ■茨城県取手市 「取手ウエルネスプラザの取り組みについて」

取手ウエルネスプラザは、JR取手駅前の土地区画整理事業において「健康づくり」、「子育て」「市民交流」の3つの支援機能をもち、保健センターのほか、トレーニングジムやキッズプレイルーム、多目的ホール等が整備されており、開館時間も午前8時30分から午後10時までとし、駅前という立地条件を活かして、仕事終りの人が利活用できるよう配慮されている。取手市では、幸せを判断する事項で1位が「健康状態」であった。安城市の総合計画において掲げる5Kも「幸せ」に直結する施策が必要と感じた。



### ■関内イノベーションイニシアティブ株式会社「事業者からみたソーシャルビジネスの可能性について」

民間企業として、「シェアオフィス事業」、「起業創業・経営サポートを行うスクール事業」、「クラウドファンディング事業」、「コミュニティデザイン事業」等の地域に密着した各種事業を展開している。ソーシャルビジネスは、新たな雇用や市場の創出につながることも期待されるが、「人材の確保」「売上げの増加」「運転資金の確保」等の課題もあり、安城市としてもケンサチグランプリを通じて、ビジネスプランの策定から事業の自立自走に向け、各種課題の解決策について検証を進め、事例の蓄積に努めたい。



### ■神奈川県庁「未病センターの取り組みについて」

未病センターの取り組みは、神奈川県がなるべくお金をかけず、県民に健康への呼びかけを行う手段として始めたものである。特に、“未病”というキャッチフレーズを採用し、人々の関心をひきつけていることや、登録制度の内容を緩く設定し、民間企業の創意や工夫を引き出すことに努めていることなど今後参考にすべき点が多かった。安城市が健幸をあえて“ケンサチ”と表現したのは、市民の興味をそそるためであり、言葉の力の重要性とともに、制度の周知や理解の促進を図るためには、口コミはオーソドックスだがとても有効な方法であることを再認識した。